

自然観察会

11月25日(土)、急に冷え込んだ中、午前9時、会員10名および一般参加7名(内子供1名)が羽川西小学校の東側駐車場に集合。高瀬会長の挨拶の後、姿川の土手沿いを下流へ行き、思川合流地点より上流を目指して歩む。黒本橋を経て、小宅橋へ。途中、ミサゴ、ショウビタキ、ダイサギ、アオサギ、等20数種類の野鳥を観察。野鳥班リーダーの神山氏から望遠鏡を介して説明があった。また、草木について副会長で草木副リーダーの柏崎氏が現物を手に取りながら説明された。ただ、残念ながら目的の一つであった鮭の遡上は今年も見られず、地球温暖化の影響を懸念しながらの観察会でした。(渡辺)



つる細工とリースを作る会

12月8日(金)、マルベリー館にて開催しました。思川付近で採集した、葛やブドウのつる、松ぼっくり、椎や柄、ふうの実などを活用して、かごやクリスマスリース作りに挑戦。今年は太さのそろった良いつるが手に入り、編み上げもスムーズに進み、見事な花かごや果物かごを作り上げていました。また、つるを輪にしたリースには、木の実や緑の美しい葉をワイヤーやグルーガンで取り付け、最後にかわいいリボンを巻き付けて完成。個性あふれる素敵なクリスマスリースが出来上がりました。飾りを変えればお正月にも活用できると好評でした。(早川)



思川に思いをはせて



思川に思いをはせる会の皆様には常日頃からご支援、ご協力いただきまして有難うございます。昨年5月からコロナ過については5類になり令和5年度においては計画通りの事業をなすことが出来ました。事務局をはじめ各ジャンルの代表の皆様に変えお骨折り頂きありがとうございます。さて、令和5年度においてはアコ祭りの復活や小学生を対象にした出前講座が1校増えて3校となり、思川の生き物、取り分け外来種などに対し子供たちの興味や関心の高まりを感じました。また、親子釣り体験は昨年度は増水タイミングが悪く中止となりましたが、今年度は全員釣果があるなど成功に終わりました。今後も事業を通して会の目的に沿い実施活動をしていきたいと思ひます。皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い致します。会長 高瀬 孝明

思川短信



思川は河畔林の多い川です。水も年間通して流量があります。季節にもよりますが、こんな野鳥が観察できます。大鷹、ノスリ、ミサゴ等、そして野原ではキジ、ヨシキリ、ヒバリ等々、水辺にはチドリや鴨類等々、多くの野鳥を見る事ができます。昨年5月の事です。小宅橋近くの川原でコウノトリを見掛けました。1回目は1羽で、2度目は2羽でした。河川内の伏流水から流れる小川で餌を取っているようです。〔写真は5月28日小宅橋300m上流で〕(柏崎)

『思川に思いをはせる会』の概要

- 設立 2005(平成17)年3月27日
- 目的 思川に関心のある市民や市民団体の交流活動や思川との触れ合いを通じて、思川に対する愛着や誇りを持ち、思川を楽しむためのリーダーを育て、ひいては思川の魅力向上に寄与する
- 会員資格 会の目的に賛同し、自ら思川で活動する個人、団体
- 活動内容 思川に関する講座・イベント等の企画・立案・実施 / 思川に関する情報の収集・発信
- 会費 無料
- 会員数 50名(2024年2月現在)
- URL <https://www.city.oyama.tochigi.jp/soshiki/51/221760.html>

野鳥観察会

場所 観覧橋から小山浄水場取入周辺
参加者 13名
(内訳: 会員7名、一般5名、市役所窓口)

1月20日(土)曇天で寒い中、午前9時、観覧橋の袂の東屋に13名の方が集合。全体朝礼の後、野鳥観察班の神山リーダーからレクチャーを受け出発。観覧橋を渡る途中で水鳥を観察。橋を渡り上流の土手沿いを進み、時折止まって観察しながら、市の浄水場を目指して河川敷を進む。目的地周辺には冬鳥の他、魚を捕食するサギやウ等も多く、またカワセミやキジ等も居て市街地の割には自然の豊かさを感じた。ここで記念撮影し、折り返し11時過ぎに集合場所の東屋に戻り、解散。今回、観察できた野鳥の種類は18種と意外に多く、皆さん満足されたようでした。(渡辺)



編集後記

当会の設立は釣りジャーナリストの関谷忠一氏が当時の大久保市長に提言したことからスタートしたと聞く。

9月下旬、大芦庵に顧問の関谷忠一氏を訪ねた。氏とは、小生が入会する前から釣りを通じてSNSの友達だった。初めて会ったにも関わらず、釣り談義に一気に花が咲き、「源流を訪ねる会」のサポート依頼の話もとんとん拍子で纏まった。人の縁とは不思議なもの。会を発展されるにも、こういった「縁」は大切にしたいと思った。(渡辺)

写真右が関谷忠一氏 ▶



野草採取の会

4月21日(金)小宅橋西側に9時集合、参加者17名。皆さん張り切って楽しみに参加、3班に分かれて採取場所に向かいました。11時前に再集合、採取成果を持ち寄り、皆で分別をしながら野草談義を楽しむ。今回も10種以上の採取成果がありました。しかし最近季節の進み具合が早いのか!コゴミ、ワラビ等成長が早く、食用として採取できませんでした。来年度からは、1週間ほど早目の日程を考える必要を感じています。若草を食す習慣は大変昔から有り、七草を食べると長生きできると言われております。若草



については万葉集百人一首にも沢山謳われております。(柏崎)

野草を食べる会

4月22日(土)マルベリー館調理室で「野草を食べる会」が開催されました。前日採取した野草「セリ、クレソン、ヨモギ、ワラビ等13種類」の説明を柏崎副会長から受けた後調理開始。参加者18名は3班に分かれ、天ぷら・草餅・胡麻和え・おひたし等を手際よく作りました。今回は明日葉とふきの寄付があったので、きんぴらと炒め物も追加しました。皆さんの協力のおかげで、11時頃にすべての調理が完成。持ち帰り用のパック詰めをして参加者に持ち帰って頂きました。今年は気温が高かったため、こごみやワラビは伸びすぎてあまり採取できませんでした。野草を観察していると環境や気候の変化が身近に感じられます。このイベントは下野新聞社、テレビ小山の取材を受けました。(大出)

